

南昌だより

2018
No. 34
2018年10月1日発行



ケアセンター南昌の歌
いのち かがやく

作詞 大友康二
作曲 菊地清志

ケアセンター南昌 本誌 P6

医療法人社団 帰厚堂

【基本理念】

「愛と誠の精神」

私たちは、
すべての人に感謝の気持ちをもって
奉仕いたします
また、
信頼される医療を提供するために
全ての専門職種による
チーム医療に万全を期します

社会福祉法人 敬愛会

【基本理念】

「地域と共に生き 地域と共に歩む」

私たちは、
すべての人に感謝の気持ちをもって
奉仕いたします
また、
信頼される福祉サービスを提供するために
全ての専門職種による
チームケアに万全を期し
その人らしい生活が育まれるよう
支援します

2018
No. 34
Contents

- 2P……………巻頭言
- 3P……………職場紹介
……………スタッフ紹介
- 4P～5P ……リハビリテーション その5
- 6P～8P ……ケアセンター南昌

- 9P……………RUN伴
- 10P……………志和荘
- 11P……………悠和荘
- 12P……………恒和荘
- 13P……………若園荘
- 14P……………イクボス宣言
……………敬愛荘
- 15P……………災害派遣報告
- 16P……………診療案内



医療法人社団 帰厚堂
<http://www.kikodo.or.jp/>

社会福祉法人 敬愛会
<http://www.shiwasou.jp/>



ハラスメントから大切なスタッフを

南昌病院 総看護師長 村松 洋子



このところ、国内外で暴力やハラスメントの問題に関する報道が連日続いています。

これらの報道からもわかるように、ハラスメントはあらゆるところで発生することがわかり、病院・施設にあっても不思議なことではありません。

ハラスメントの定義は「言葉や態度、身振りや文書等によって、働く人間の人格や尊厳を傷つけたり、肉体的・精神的に傷を負わせて、その人間が職場をやめざるを得ない状況に追い込んだり、職場の雰囲気を悪くさせることである」とされています。

報道から憂慮されるのは、被害者の殆どが女性であることです。

当病院の職員構成は、看護職・リハスタッフ・その他の科で働く職員の72%が女性であるところに大きな不安があります。

ところで、一般的に病院では、これまで患者さまやご家族からハラスメントを受けても「病気だから仕方がない」と我慢を強いられることが多く、周囲の理解が十分得られない状況にありました。

しかし、このところ世論も高まり看護職の実態調査が行なわれました。平成30年5月16日に公表された公益社団法人日本看護協会の「2017年看護職員実態調査」結果によると看護職員の52.8%が、過去1年間に勤務先で暴力・ハラスメントを受けたことがわかりました。

誰から受けたかでは、「精神的な攻撃」は、「勤務先の職員」が64.8%、ついで「患者から」が40.7%、「身体的な攻撃」は、「患者から」が94.5%と際立って多かったということです。

また、介護現場で働く人たちが利用者やその家族から性的嫌がらせや暴言のハラスメントを受けている事例も相次いでいると報道されています。今春の日本介護クラフトユニオンの実施した調査では、2,411人のうち74%が「利用者やその家族からハラスメントを受けた経験がある」と回答、30%がセクハラを経験し、その90%は女性だったということです。

以前は、「患者と家族は、絶対的に弱い立場」と考えられどんな暴力にも「我慢」しなければならない時代でしたが、時代は大きく変わってきました。

このような実態を知るにつけて、全体職員の72%と多くの女性職員が働いている当院でも例外とはいえません。

患者さまやご家族からハラスメントを受けた職員の中には、本来の業務ができなくなり、萎縮しミスが増え体調を崩す例もありました。また、抑うつ状態や恐怖感、さらには、休職や退職等に追い込まれる事例があることも事実です。

ハラスメントの相手が、患者さまやご家族であっても、受けたハラスメントにより健康障害が、発生した場合には、警察に被害届を出すことや、刑事責任を問うことも出来るようになりました。

かつて、私はまえの職場で、部下を暴力から救おうとして、「これで終わり」という危険な経験を2回しています。当時は、上司も組織からもフォローがなかったため、自分で「仕方がない」と封じ込めました。今でもそのときの恐怖感は、はっきりと思い出す時があります。

大切な職員にこのような思いはさせたくないし、このようなことにならないように、しかし、不幸にして発生した場合は、良き理解者となり病院として組織的にかかわっていききたいものです。



職場紹介

住み慣れた自宅での安心した入浴の提供 ＝ 訪問入浴介護やはば ＝

当「訪問入浴介護やはば」は、ケアセンター南昌一階内に事務所があり、看護師7名、介護士7名でサービスを提供しています。

訪問入浴は、看護師1名を含めた3名のスタッフが訪問入浴車(2代目 愛 LOVE 湯号)で自宅を訪問し、ポータブル浴槽や必要な道具をお部屋に持ち込んでセットし、入浴車からお湯を送り、お部屋の中で入浴していただくサービスです。寝たきりの方や障害を持つ方などで自宅のお風呂では安心して入浴することが出来ない方、浴室の設備の面でお風呂に入ることが難しい…など、様々な理由により自宅で入浴できないことがあります。そのような場合でも訪問入浴サービスを利用すれば、自宅で安心してお風呂に入ることができます。

浴槽を部屋へ運び入れるということで、部屋の広さを心配される方もいますが、2～3畳(ベッド程度)あれば、可能です。もちろん、お湯の準備も必要ありません。

入浴前には看護師が血圧や体温の測定、体調の確認を行い、入浴に問題がないことを確認します。体調が悪くなかった際には身体の一部(足や手)のみをお湯につける部分浴や、ベッド上で身体を拭く清拭への変更を提案する場合があります。現在、ALSや筋ジストロフィー等のため呼吸器を使用されている方もおり、状態に応じたサービスを行っています。

入浴は心と身体のケア、清潔保持のほか様々な効果が期待できます。温浴効果により手足などの身体機能や関節の痛みなどの身体的効果のほか、リラックスすることで笑顔が見られるなど、家族ともコミュニケーションをとる「ゆとり」がうまれるなど、精神的効果も得ることができます。

訪問した際には「こんなにゆっくり入れてもらえるとは思わなかった」「極楽だ、ずっと入っていたい」等の声をもらうことも多く、スタッフの励みになっています。

お風呂に入って「ほっとコミュニケーション」そんなあたたかなサービスを心掛け、利用者のご家族の在宅生活をサポートできればと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



スタッフ紹介

「真剣かつ楽しく」－笑顔で支援－

はじめまして。南昌病院リハビリテーション科、言語聴覚士の民部田真緒と申します。私が言語聴覚士となり、入職してから6年となりました。仕事には慣れましたが、患者さんの症状や状態、生活歴は多種多様なため、まだまだ悩むことも多くあります。

私は現在、回復期リハビリテーション病棟を担当しています。言語聴覚士の仕事は、言語障害(話す、聞く、読む、書く)、音声障害(声を出す)、嚥下障害(食べる)、といった、言葉によるコミュニケーションや飲み込みに問題のある方の社会復帰をお手伝いし、自分らしい生活ができるよう支援することです。そのため、患者さん一人ひとりの退院後の生活をイメージしながら、日々の臨床に携わっています。

私が、言語聴覚士になって思うことは、周囲と意思疎通がとれない、家族とコミュニケーションがとれないことは、患者さん自身だけでなくその相手にももどかしさや、辛さがあるということです。ご家族の方から、「話ができるようになってほしい」、「何を言いたいのかわかってあげられない」と、声をかけられる機会が多くあります。コミュニケーションとは、言葉で伝えるものというイメージがありますが、表情や視線、指差し、ジェスチャー、筆談など様々あります。患者さん一人

ひとりに合ったコミュニケーションのとり方を考えることはもちろんのこと、相手の話し方や、聞き方、間のとり方一つで、お互いにコミュニケーションがとりやすくなることは多々あります。こうした方法をご家族や職場の方、介護者へ伝えることも、重要な役割の一つだと感じています。

また、私が日々の臨床で心がけていることは、楽しい雰囲気作りです。リハビリは、能力を再獲得することや、新しいことに挑戦することもあり、時には難しいこと、大変なことがあると思います。特に言語障害の方は、想いを表現することが難しく殻にこもってしまいがちです。だからこそ、患者さんが苦手な部分に真剣に向き合いながらも、意欲的に取り組めるような「楽しい時間」であることも大切だと考えています。それは、何気ない会話や患者さんの好きなこと、興味のあることをリハビリに取り入れるなど様々あります。

これからも、「真剣かつ楽しく」を忘れず、患者さんとそのご家族、周囲の方の想いに寄り添いながら、笑顔で支援していきたいと思っています。

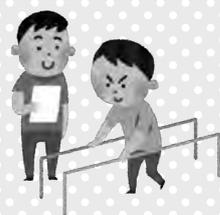


南昌病院
言語聴覚士
民部田 真緒

連載

「リハビリテーション」

その5



高齢者における運動効果！！ ～筋力低下と生活機能障害に着目して～

「身体各部は使用に因て強壯となり、使用せざれば衰落す」これは、江戸時代の「養生書」（天保5年：1648年頃～）に書かれていたとされる一文です。

日本には、古くから医学の一科として「養生科」があったといわれます。「養生」とは、生を養うこと、長生をはかることと解され、すなわち身体を養い、丈夫にする全ての方法や手段が含まれます。江戸時代におけるほとんどの「養生書」は身体運動を取り扱っており、運動が身体の増健的、保健的観点から捉えられ、「養生」の実践にあたっての有効な手段と考えられていたようです。

このようなことから分かるように、健康の保持増進にとって運動が大切であるということは、古くからの一般的な共通理解であろうと思います。しかし、分かっているだけでも、生活の中に一定の運動機会を確保し、運動を習慣化することの難しさを感じている方も多いのではないのでしょうか？また、年齢を重ねると、運動をしても効果がないと思われる方もおられるかも知れません。そこで、今回は、特に高齢者における筋力低下と生活機能障害について、更には運動の効果にも焦点をあてながら、まとめてみたいと思います。

○高齢者の筋力低下と生活機能障害

一般的に高齢者の筋力低下は、特に抗重力筋（重力に対抗する筋肉：前号参照）において顕著であるとされます。20歳代の成人に比べると、平均で約40%筋力が低下するといわれており、それによって、起居移動動作（寝返り、起き上がり、立ち上がる、歩行などの基本的な動作）の能力低下や「生活機能障害」が引き起こされます。

「生活機能」とは、人が生きるための機能全体を指す言葉で、食事、更衣、入浴、排泄、整容などの身の回りの基本的なことに加え、買い物、家事、電話への

対応、交通機関の利用、服薬の管理、金銭管理など、より複雑な生活に関連する動作や行為も含まれます。さらに、様々な状況に対応する能力や社会的な役割を担う能力までも含まれますので、「生活機能障害」とは、それらが難しくなる状態とご理解いただければよろしいと思います。生きるための機能全体ですので、それが障害されるということは、非常に大きな不便を伴うであろうことが容易に想像されます。いずれにしても、筋力低下という身体機能の低下が、様々なレベルで大きな問題につながってくるわけですから。



一方で高齢者の筋力低下は、トレーニングによる改善効果が比較的容易に表れるともいわれ、国内外の数多くの調査研究報告から得られた共通の見解は、「高齢者であっても筋力トレーニングによって筋力が向上する」ということです。ですから、個々によって差はあると思いますが、運動により「生活機能障害」に陥る要因を一定程度は減らすことができる、ということになります。

○運動効果の具体例

73～90歳の高齢女性に対し、6ヶ月間の運動（筋力強化、バランス運動、歩行）を行った結果、運動をしなかった群に比べて、下肢の筋力やバランスが有意に改善したという報告があります。その報告では、さらに2年間の追跡調査が行われ、運動をした群は、しなかった群よりも転倒発生が抑えられたそうです。また、別の

報告では、90歳代の超高齢者に8週間の筋力トレーニングを実施したところ、大腿四頭筋(だいたいしとうきん:大腿部の前面にある筋肉)の筋力が約2倍に増加し、その筋断面積が11%増大したということも示されています。

目に見える効果のみでなく、筋肉の内部で起きる変化についても色々明らかにされています。例えば、高齢者と若年者では、骨格筋の質が異なるといわれます。すなわち、筋肉の中身が異なるということですが、高齢者では若年者に比べ、骨格筋の中に占める脂肪組織や結合組織の割合が多いことが知られています。その割合は、若年者の4.8%に対し、高齢者では15.5%であったとする研究報告もあります。脂肪組織や結合組織は筋肉のように収縮して力を発揮することはありませんので、占める割合が多いほど発揮できる力が弱くなります。しかし、そのような状態も、運動によって一定程度の改善維持ができるということが明らかになっていますので、やはり、運動習慣を身につけることが大切になってきます。

骨格筋の質的な部分については外見から伺い知ることができませんが、運動習慣のある方とそうでない方では、外見上に差がなくても、実は中身は全く違うということになりますので、「体型が変わっていないから自分は大丈夫」と安心するのは禁物かも知れません。

○平均寿命と健康寿命

日本人の「平均寿命」は右肩上がりに上昇し続け、今後もさらに上昇すると推計されています。今や世界有数の長寿国となった日本の姿を江戸時代の人は想像したでしょうか。衣食住に困らず(真に豊かかどうかは別として)、進歩した医療の恩恵を受ける現代は、それだけを見れば間違いなく“長生がはかられている”と言うことはできるかも知れません。しかし、2000年にWHOが提唱した「健康寿命」という考え方から見ればどうでしょうか。

「平均寿命」が生まれてから亡くなるまでの期間(0歳児の平均余命)を表すのに対して、「健康寿命」は「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されています。すなわち、人の手を借りることなく自立して過ごすことができる期間を表しますので、「生活機能障害」がない期間と解釈することもできます。ですから、「平均寿命」と「健康寿命」の差はできるだけ少ない方が、個人にとっても社会にとっても好ましい

ことになります。平成28年の国民生活基礎調査のデータを見ると、「平均寿命」と「健康寿命」の差は、男性で8.84年、女性が12.35年となっています。この差は男女とも若干の縮小傾向にはあるようですが、それでも、平均しておよそ10年程度は、なんらかの形で人の手を借りながら生活することになるわけです。そのようなことを考えれば、「養生書」に書かれてあることは、現代においても未だ共通する課題ではないでしょうか。

今回は、「運動」が何歳になっても必要なものであり、また、効果があることの理解を深めるために、高齢者の筋力低下と生活機能障害の関係、そして運動の効果を切り口にまとめてきました。「筋力低下」は「生活機能障害」につながることで、そして、「筋力低下」は「運動」によって改善の余地があることを確認しました。

最後に、誤解のないように申し上げておけば、“人の手を借りる”ということは、それ自体が問題ということではありません。必要なことはたくさんあると思いますし、また、今は必要ないとしても、いずれ誰しものが必要となる時がくるものだと思います。ここで申し上げたいのは、現時点において健康で自立した生活を営んでおられる方々が、その生活と比べた時、ご自身の生活上の様々なことをご自分のペースで、ご自分の判断で、ご自分の自由意思だけで営むことができなくなる可能性があるということです。そのような観点に立てば、年齢を問わず、全ての人が、そのために今なにをするか?ということをご自身の心構えとして考えておくことが大切であろうかと思えます。

「身体各部は使用に因て強壯となり、使用せざれば衰落す」

先人の教えを皆さんはどのように受け止めますか?



各施設から

ケアセンター南昌での主な取り組みについて (H30.7~9)

【インターンシップ・お買い物レク】(ケアセンター南昌)

7月に不来方高校の学生が職場体験として博愛荘に来てくれました。偶然にも、初日はお買い物レクの日だったため、盛岡南イオンへ一緒に同行してもらいました。お店に到着すると、利用者は建物の大きさに驚き、何度も見上げ「はじめて来たじゃ。」「どこ来たんだべ?」といった反応を見せていました。イオンで購入するものを決めていた利用者もいて、売り場に来ると目を輝かせながら商品を選んでいました。昼食はフードコート内で各々食べたいものを選び、職員も一緒に昼食を摂りました。

体験学習で同行した学生は将来看護師になるという夢があり、「こんな楽しい職場なら仕事として働きたい」「介護の現場がこんなに楽しいとは知らなかった。」と感想も聞かれました。人手不足と言われている今、将来の医療、福祉を目指している学生に一筋の希望をもつことができました。



【フォーグレースコンサート】

8月毎年の恒例になっている「フォーグレースの皆様」によるコンサートが開催され、楽しいマジックショーや素敵な歌声で利用者、園児、職員全員で楽しい時間を過ごさせていただきました。

今年は驚きの出来事があり、フォーグレースの皆様が、ケアセンター南昌の歌を作詞・作曲しプレゼントしてくださいました!! 矢巾の美しい風景や優しさがあふれた歌詞と、ケアセンター南昌ならではの、園児との歌の掛け合いを織り交ぜた、とてもすばらしい歌をいただきました。

いただいた歌を会場のみんで練習し、最後に約100名で大合唱をしてコンサートは終わりました。



いのち かがやく

作詞 大友 康 志
作曲 菊 地 清 志

♩ = 84 A Bm7 E

1. やさしい ことばを いっぱい のせて やはばの
2. きれいな おもいで いっぱい つくり やはばの

E7 A A7 D

さとにしるいくも つどろよるこびえが
そらはとうあかね であいふれあいしあ

A D E

おはよう かわすほほえみ あたたかく
おやすみ いのちあかるく うつくしく

A D E

おはよう 「おはよう」 げんき 「げんき」 あーりがと
おやすみ 「おやすみ」 またね 「またね」 まーたあし

A A7 D A

うー 1.2みーんなで つーくる
たー

D E A

なーんしょうのー ごーころの
ゆーめーの

D E A

ふるさと 1.2なーんしょう えーん
ふるさと

*「おはよう」「げんき」「おやすみ」「またね」は、言葉であいさつ、元気に

【地域交流～町内カフェにて～】(DSつむぎ)

9月の外出レクは、矢町内のカフェへ出かけしてきました。以前利用していた方の自宅で営んでいるカフェであり、ご子息の好意により実現に至りました。馬屋を改装したという建物の外観は、懐かしさを残しつつ、店内は洗練された雰囲気、絵画がいくつも飾られている素敵な空間でした。カフェテラスに腰かけ、庭に咲く花々を眺めることができました。「徐々に喫茶店でお茶を飲んだ。」という方もおり、おいしいデザートを食べながら、おしゃべりして楽しむことができました。帰り際には、ご子息が摘んだバラの花を手に写真を撮るなどし、普段のつむぎでは味わうことの出来ない優雅な時間を持つことができました。

今回は外出レクとしての地域交流となりましたが、これからも「つむぎ」の利用を通し出会った方々とのつながりを大切にし、地域との交流を続けられるよう努めて行きたいと考えています。



【バスハイク&家族会】(敬寿荘)

今年のバスハイクは、家族会も兼ねて行われました。当日は雫石あねっこへ行き、昼食を食べたり、お買い物をしたり、レク等で楽しむことができました。参加されたご家族からは、「自分達では、なかなか連れて行けないから一緒に行けて嬉しい」等の感想もいただきました。

私達職員も、普段聞いた事のない話などご家族から聞けて楽しい行事となりました。

ご家族との外出が難しくなってきた入居者も多くなってきています。この行事を通し、入居者、ご家族の思い出が増やせるよう協力していきたいと思えます。



【夏祭り 7月7日(土)】(こずかた保育園)

(第1部) 親子ふれあい遊びをした後、盛岡アマチュアマジシャンの方々によるマジックショーを見せていただきました。色々な手品を見せていただき、楽しい時間を過ごすことが出来ました。



(第2部) あいにくの雨。保育園内で行ないました。保護者会役員会の皆様のご協力のもと、屋台を出店。雨でもたくさんのお客さんに来ていただき、どのお店も大盛況! 時間内にほとんど売り切れました。「楽しかったー!」という子どもたちの言葉でみんなが笑顔になりました。



【運動会 9月8日(土)】(こずかた保育園)

運動会は雨のため、煙山小学校の体育館をお借りして行われました。

オープニングでは「お祭り」をテーマに2・3・4・5歳児、それぞれ元気いっぱい踊りました。小さい組の競技には、会場全体が笑顔いっぱいになり、大きいクラスの競技については、どの種目も白熱した戦いになりました。



3・4歳児の仲良しリレーや親子リレーではたくさんのドラマがあり、大歓声に包まれ、子どもたちの成長を間近で感じることが出来ました。



【お散歩～身近なおすすめスポット!!～】 (ショートステイやはば)



ヒバリとウグイスの入所者とスタッフでセンターの屋上へ散歩に行きました。屋上のドアが開くと「綺麗だね〜!」と一同大喜び!この日は少し気温が高かったですが、薄く長い雲と青空がとても綺麗でした。また、景色もよく見え、南昌山や遠くの盛岡までパッチリ見えました。



利用者同士でご自分の自宅の場所を確認したり、新幹線が通るのを見て「速い!すごいねー!」と喜ばれる方もいました。散歩の後は涼しい場所で冷たい飲み物とおやつを頂きました。

【夏祭り・夕涼み特集!!】 (博愛荘・敬寿荘・博愛荘デイケアセンター)

8月!暑い夏を満喫する為、センター内の事業所で、それぞれの特徴を生かし趣向をこらした「夕涼み・夏祭り」を開催いたしました。

【博愛荘】

今年は例年がない猛暑だったこともあり、夕涼み会は開催日をずらし屋内での開催となりました。ドリンクやわた飴、アイスクリームを用意し、利用者やこずかた保育園児のみなさんに喜んでもらいました。わた飴作りでは、職員の慣れない手つきにセンター長も心配そうな様子で眺めていました。

直前まで大型台風の接近で開催できるか不安もありましたが、今年も無事に開催することができました。後半は、白沢さんさ踊り保存会のみなさんに来ていただき、職員、利用者一緒にさんさ踊りに参加し、楽しく過ごすことができました。



【敬寿荘】

8月8日夕涼み会が開催されました。日頃から協力頂いている地域の方々への感謝もこめて、敬寿荘に関わってくださる皆様と共に夕涼み会を一緒に楽しみ、更に交流を深めたいという目的で毎年企画しています。今年も合計80名以上の参加人数となった夕涼み!美味しい食べ物や、踊り、歌、会場全体を使い輪踊り等でたのしみました。



【博愛荘デイケア】

8月8日(水) デイケア夏祭りを開催し、屋台・縁日を開いてお出迎えしました!!

屋台では、薄焼きとパフェを提供し、パフェはカステラやホイップクリーム、バニラアイス等甘いものを贅沢にのせました。全て職員の愛情がこもった手作りです♡「おかわり!!」との声もあり大盛況でした。

縁日は輪投げ大会を行い、普段であれば「遠慮するよー」と話す利用者も、今日は夏祭り!!ということで全員が参加することができました。皆さん気合が入っていたのか、いつも増して高得点の方も多く、周りで見学する利用者や職員からの歓声で盛り上がりしました。

そして今年は、利用の方にも浴衣を着ていただきました。「何十年ぶりに着たのか…」「初めて浴衣着た♡」と話され、緊張されている様子でしたが、とっても素敵なお2人でした♪

縁日で笑い、屋台でいつもより少し高いカロリーを摂取した分、リハビリも体操も頑張ります!!



**利用者も職員も
笑顔あふれる時間
になりました☆**



「チームやはば」繋いだタスキ → 沖縄まで!!

= RUN伴 (ランとも) 2018 (認知症の啓蒙サポート) =

9月8日(土) RUN伴 (ランとも) 2018に「チームやはば」(事務局: 矢巾町地域包括支援センター)としてケアセンター南昌からもメンバーを募って参加しました。

■RUN伴とは、

「認知症の人や家族、支援者、一般の人がリレーをしながら、一つのたすきをつなぎゴールを目指すイベント。タスキをつなぐという「非日常的な」体験・出会い・気づきから、認知症の人と一緒に誰もが暮らしやすい地域づくりを提案し、それぞれの「日常」が変わっていくことを目指す」といった取組みです。

今年の「チームやはば」は、ランナー19人とわんパト隊員が参加しました。当日は、台風などの接近もあり開催できるか不安もあり、朝7時「やはばーく」(矢巾駅東口)に集合時は雨が降っていました。しかし、包括支援センター吉田所長の気合スタートのもと「チームやはば」のRUN伴がはじまりました。

タスキは、

- 東見前 → 矢巾駅東口……………包括支援センター、ケアセンター南昌A
- 矢巾駅東口 → やはばーく……………ケナフ、矢巾町役場
- やはばーく → ファミリーマート……………わんパト隊
- ファミリーマート → 矢巾駅東口……………敬寿荘、むつき
- 矢巾駅東口 → スーパースポーツゼビオ紫波店…ケアセンター南昌B

の順でつないでいきました。

途中の「やはばーく」で矢巾町からのメッセージをいただき、仲間と楽しそうに走る様子や、わんパト隊のかわいさに笑顔し、必死に走る姿を応援し、あっという間に次の「チーム紫波」にタスキが渡されました。また、心配されていた天気もゴール地点では、すっかり晴れ最高のゴールを迎えました。



【感想】

今年、認知症サポーターの研修をうけオレンジリングをいただいたことをきっかけに、初めてRUN伴に参加しました。初参加にも関わらずアンカーを走らせていただき緊張もしましたが、前日から職場の人と相談し少しでも盛り上げられたらと思いラスト全力で走りました。早朝にも関わらず、地域の方など沢山の方に応援していただき、矢巾町の温かさを感じました!

私たちがつないだタスキが、今日1日で一関まで渡り最終ゴール地点の「沖縄」までつながるんだと思うととても考え深い取組みだなと思い、来年も参加したいと思いました。(ケアセンター南昌 YOSHI)

ケアセンター南昌 介護職員 地域で大活躍!!

～ 認知症サポーター養成講座で専門性を地域に還元 ～



地域に認知症の理解を広げる「認知症サポーター養成講座」。受講した矢巾町民は、9月末現在で4,800人。人口比率で15.4%、10年前の最下位から33市町村のうち第5位(3月末現在)に上昇しています。

この広がりは町内小・中学生も対象にするようになり、9月18日(火)は、煙山小学校の4年生87人が「総合学習の時間」を活用し、受講しました。

この日の講師(「キャラバン・メイト」と呼ぶ)は、介護老人保健施設「博愛荘」の野村尚司介護主任と佐々木信宏介護主任。そして、介護戦隊「ジュウミンジャー」のレッド役には「グループホーム敬寿荘」の中山亮ユニットリーダーが登場。「おもしろく、わかりやすく」をモットーに小学生に、認知症の学習を通じて、「思いやり」と「支え合い」の心を伝えました。

ケアセンター南昌の介護職員のみなさんをはじめ、多くの事業所の専門職が地域に関わる取り組みも広がりをみせています。受講した住民のなかからは、生活支援活動を行う「おれんじボランティア」も誕生しています。

地域づくりのために、専門職を地域住民が活用していくことが「地域包括ケア」でのポイントになると思われます。



左から野村尚司介護主任、佐々木信宏介護主任、ジュウミンジャーレッドの中山亮ユニットリーダー

志和荘

施設紹介

特別養護老人ホーム：常に介護が必要で自宅では介護ができない方が対象の施設です。

【流しそうめん】



7月12日(木)流しそうめんを行ないました。竹の滑り台をサーッと流れて行くそうめんをすくい取ろうと皆さん待ち構えていました。上流で上手にすくう方がいると、なかなかお腹いっぱい食べる事ができません。それを見かねて、流し手が「〇〇さん、次行きますよ～！」とそうめんを流しても、またあの上流の人が颯爽とすくって食べてしまう…。そんな楽しいひと時を過ごす事ができました。ご協力いただきましたメフォスさん、ありがとうございました。



【夏祭り】



7月20日(金)夏祭りを行ないました。日中は凄く暑かったのですが、祭りが始まる18時頃にはだいぶ涼しくなりました。

南昌育成会の子供達と保護者の方々、職員の選抜さんさ隊によるさんさ踊りが披露されました。子供達が踊るのを目を細めて見たり、いつもと違う姿の職員が踊る様子を手を叩いて喜んで見っていました。



甘いスイカのおやつタイムの後は、皆さんお待ちかねの花火大会です！日が暮れて薄暗くなった空に、色とりどりの花火が咲きました。

ご家族も多く参加され、夏のひと時を共に過ごしました。



【志和荘大運動会】



8月2日(木)大運動会を行ないました。ユニット毎にランダムに紅白に分かれて対戦しました。全員参加の『玉入れ合戦』はチーム毎に輪になり、カゴをめがけて玉を真剣に投げていました。選抜選手の『コン・ボーリング』や『パン食い競争』も、手に汗握る白熱したレースになりました。この時点では紅組優勢！次は職員レースにバトンが渡されました。種目は『とっこハム次郎(仮題)』(輪にした段ボールの中に入り、這って進むアレです。)これがなかなか難しい！！どンドンコースから外れ観客席にあわや突っ込みそうになったり、お互いにコースから外れ正面衝突したりとスリリングなレースになりました。



結局職員レースで紅組が大敗し、白組が優勝しました。心地よい汗をかき、勝っても負けても楽しい運動会でした♡



【敬老会】

9月17日(月)に敬老会を開催しました。今年度の表彰者は、百寿者の阿部さん・金平さん・平船さん、米寿者の佐々木さん・澤口さん、最長寿者の五日市さん(102歳)の6名でした。以上の方々とその他入居している全ての方の長寿と健康をお祝いしました。

アトラクションは恒例の『矢巾町民謡保存会・漆原栄美子ショー』！！！！趣向を凝らした歌と踊りで会場を魅了しました。プロの舞踊家の方の踊りを身を乗り出して観て、「見事だ！！」「綺麗だった～！」と溜息まじりに話していました。



その後ユニットに戻り、豪勢な弁当を囲み会食を行ないました。黒豆・赤飯・鰻の蒲焼き等々たくさんのご馳走を嬉しそうに召し上がっていました。

皆様の長寿をお祝いする事ができて、職員一同喜んでます。いつまでも長生きして下さいね！



7月13日 (音楽療法)

今年から悠和荘では月に1回、音楽療法で小泉洋子先生をお招きして行っています。懐かしい音楽に入居者の皆さん目を細めています。入居者の毎月の楽しみです。



7月26日 (流しそうめん)

竹の中に流れるそうめんに皆さん「綺麗だねえ〜」「とれるかな?」と食事の前からワクワク!水の流れる涼しげな音に夏の暑さも吹き飛ばしてしまいました!



ユニットリーダー研修に参加 (参加：介護福祉士 正路奏子)

7月2～4日はマリオスにて講義を受け、7月24～27日は花巻あすかの社にて実地研修を受けてきました。“ユニットケアとは何か?”に対して「暮らしの継続」を理念に入居者が自律した生活を送ること、入居する時に入居してからどのような生活を送りたいかを確認して支援することが基本であると学びました。初めて知ることも多く、とてもためになる良い研修でした。今後、施設にて個々の生活を知りどのような支援を行っていくのかを皆で学び、考え、ユニットケアを実践していきたいと感じました。

8月6日 (2丁目誕生会&おやつ作り)

2丁目の入居者の誕生会を行いました。バラに見立てたケーキで皆さんの笑顔も満開★☆☆素敵な誕生会を送ることができました。誕生者自らケーキカットする姿も!



8月23日 (夕涼み会)

スイカ割り、職員によるさんさ踊り、この日はビールに見立てたビールゼリーも提供され、お祭りムードに!外が暗くなったら花火大会!手作りナイアガラも良かったです!!



9月15日に敬老会を開催しました

悠和荘には今年103歳と102歳になるご長寿がいます。103歳になるアキさんのお礼の挨拶素晴らしいです!



式典終了し滝沢市の蒼前太鼓保存会の慰問の迫力ある太鼓!アキさんも太鼓を叩く叩く!

その後は敬老弁当に舌鼓♪「美味しかったよ」と言ってくれ、私たち、とっても嬉しかったです!ありがとうございます。



9月20日 (法人研修)メンタルヘルス

敬愛会の法人研修が志和荘で開かれ、悠和荘の職員12名がメンタルヘルス(アンガーマネジメント)を学びました。自分の気持ちを適切に伝えるコミュニケーションをとれるよう意識して過ごしたいと思います。

一人ひとりに合った支援 リハビリテーション

専門スタッフがチームを組んで集中的にリハビリを実施

365日リハビリテーション提供!! (回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病床)

○南昌病院 ○敬愛荘 ○博愛荘 ○訪問リハビリテーションこずかた……

リハスタッフ総勢83名(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)、(ほかに臨床心理士)

恒和荘

施設紹介

小規模多機能型居宅介護事業所：小規模な住宅型の施設で、通いのほか、訪問、短期間の宿泊などを組み合わせて食事、入浴などの介護や支援が受けられる施設です。盛岡市在住者が対象です。



今年も祭りを堪能!

恒和荘恒例行事の「夏祭り」も9回目を迎えることができました。今年は地域の青年部・女性部の方々の他に東新庄子会のお母さん方(保護者)にもお世話になり、テント設営・会場作り・屋台担当とお手伝いいただきました。エレキギターの演奏も6年目になり、みなさん「待ってました!」とばかりに演奏に聴き入り、踊り始める方もいました。今年のゲーム「これ運ぼう!そだね〜」も大盛況でした。運ぶ物も大きい物から小さい物さまざまで、自分の番まで来ないとわからないためドキドキでした。子供から大人、利用者も交えて1つのチームとして競い合い、とても盛り上がりました。最後は花垣会による「新庄さんさ」と「たあたる舞」で締めさせていただきました。利用者も踊りの輪に加わり、楽しそうに笑顔で踊っていました。



「ふれあいランド祭り」

9月2日に開催されたふれあいランド祭りに利用者8名、職員4名で参加してきました。天候に恵まれ、岩手大学民族芸能サークルによるさんさ踊りを見学し、焼きそばや焼き鳥、かき氷を食べ、お祭りを堪能してきました。「焼きそばの量が多かったね」との声も聞かれましたが、「やっぱり外で食べればおいしいねえ」と皆さん笑顔でした。当日は来場者が多く、暑さがきびしかったものの体調を崩す利用者も出ずに無事に全員元気に帰ってくることができました。来年こそはステージイベントの見学だけでなく、体験コーナーにも足を運び、日常生活では経験することができないスポーツ体験やスタンパラリーにも参加したいと話しています。今後も地域のイベントには可能な限り参加し、地域住民との交流も継続していきたいと思っております。

健寿を祝う会



9月15日(土)健寿を祝う会が開催され、ご家族やボランティア、そして地域の方々と一緒に利用者をお祝いしました。今年は卒寿2名、米寿2名おり、ご家族から祝福の言葉と共に職員手作りの花束を贈呈し喜んでいました。お昼は恒例の職員手作りのバイキング!今年は肉じゃが・信田煮・春雨サラダ・焼き魚などなど。みんな



で美味しくいただきました。

そして日本一と評判の高い日本民謡協会中央支部の方々の三味線演奏と唄と踊り、可愛らしい小学生のダンスもあり、楽しいひと時を過ごしました。

♪♪ お茶会へどうぞ ♪♪

7月のお茶会は敬愛荘職員の村松さんを含め5名の方による日本舞踊と、恒和荘職員とボランティアの野村さんによるオカリナ演奏が行なわれました。ご近所の方も含めて30名程が集まりました。踊りは6曲披露してくださり、迫力がある踊りには曲に合わせて歓声が上がっていました。オカリナは「翼をください」「岬めぐり」等7曲披露してくださり、懐かしい音色を奏でていました。



その後のおやつ 시간では利用者や近所の方々、ボランティアの方みなさんと触れ合い、初めての顔合わせの方もいろいろとお話されていて、良い交流を持つことができました。

手作りおやつ

15時のおやつに、そば粉を使ったクレープを作りました。利用者にも1枚ずつ焼いていただき、ひっくり返す時には「おー、上手!」と声が上がっていました。パイナップルや桃、生クリームを包み、ボリュームのあるクレープができあがりしました。

皆さんあつという間にたいらげていました。ごちそうさま〜。



6月25日～29日まで平成30年度岩手県認知症介護実践者研修に参加させていただきました。この研修は5日間の講義、演習と4週間の自施設実習からなるもので、講義では大半がグループワークで同じ班の人達と活発な討議を展開しました。この中では同じような事業所で働く人の意見を聴くことの重要性を再認識しました。

自施設実習では、帰宅要求がみられる利用者にも趣味など聞き取りをして、余暇時間に塗り絵をして頂くことにしました。いつも笑顔で拒否することなく取り組んでいました。何かに集中することで、帰宅要求の軽減につながることを目標でしたが、この期間は、ほぼ毎日聞かれていた帰宅要求が減り、穏やかに過ごしていました。また日中の居眠りも少なくなり成果が得られたと思います。今後も継続して取り組み、有意義な生活を送っていただけるように援助していきたいと思っております。(野村)

ありがとう！温かい心からの贈り物 …敬老の日…



9月17日敬老会が行われました。卒寿（90歳）の方3名、米寿（88歳）の方1名を含め、若園荘利用者の平均年齢は88歳ですが、皆さんお元気で参加しました。ご家族の皆さんやお客様と一緒に嬉しい膳を頂いた後、余興は毎年来ていただいている山岸グリーンコールより昔懐かしい童謡をコーラスと紙芝居で披露していただき利用者もご家族と一緒に歌っていました。中でもより大きな声で歌っていた利用者が代表の山口先生のお目にとまり、ステージ上で歌うというハプニング？もあり楽しい時間を過ごしました。心温まる敬老の日でした。山岸グリーンコールの皆さん、また来年も是非いらしてくださいね。本当にありがとうございました。



「老化と認知症」の研修に参加して



【講師：岩手医科大学神経内科 高橋純子先生】

認知症の症状や種類、認知症の物忘れと年齢相応の物忘れの違い、また認知症の方との付き合い方などを学びました。認知症の種類は主にアルツハイマー型、脳血管性、レビー小体型などがあり認知症患者全体の約7割がアルツハイマー型だそうです。また、認知症の中でも前頭側頭葉変性症は、行動障害と言語障害がでるそうです。ある新聞には、男性が3回ほど万引きを繰り返し4回目で精神鑑定したところ、前頭側頭葉変性症だったそうです。家族も周囲も認知症だとわからなかったとのことで、盗み癖と思い込んでいたようです。社会的に問題視されている認知症のようです。講師の先生の話によると認知症は中核症状を治すことは難しいけれど、周辺症状については、ケアによって症状を軽くすることが出来るそうです。またその原因を探ることが大事とのことでした。

認知症になると、考える・覚える・判断するという機能は衰えますが、気持ちの働きは衰えることなく、むしろ負の感情が大きく感じられ、悲しむ・怒るという気持ちが増すそうです。今回の研修を通じて認知症について理解を深めることが出来ました。これからのケアに生かして行きたいと思います。（鈴木／チームもりおか研修会より）

お祭りを楽しみました

7月27日は若園町子供会の皆さん30名による万灯祭り。若園荘の玄関にて利用者総出でお迎えし、子供の歌と踊りに手拍子と拍手喝采で元気を頂きました。

8月17日は恒和荘の夏祭りに招待され15人の利用者が参加されました。焼き鳥、焼きそば、とうもろこしにカキ氷、すいかなど皆さんの食欲はたいしたものでした。

また、ゲームに参加したり、バンドの演奏を聴いたり、さんさ踊りも見物できて、笑顔いっぱいでした。暑さにも負けず、利用者のパワーには圧倒されました。

9月16日盛岡八幡宮祭りの山車が若園荘の前を通るといって皆で1階に降りて見学しました。

盛岡市の無形民俗文化財に指定されている盛岡八幡宮祭りの山車行事は1709年（宝永6）9月14日、南部藩の街造りが完成したのを祝い、全町の若衆がそれぞれ趣向をこらした「丁印（ちょうじるし）」を、八幡宮に奉納して3日間城下目抜き通りを練り歩いたのが始まりと伝えられています。丁印は町のシンボルという意味で、盛岡城下各町の消防、自治的組織の標識でした。太鼓、笛、祝い音頭等、伝統を継承し表現されています。

利用者は大きい山車の迫力に目を輝かせていました。山車を間近で見ると、現地に行動しなければなかなか出来ない事です。これからも若園荘から出来る事を利用者と体験して行きたいと思います。



歓迎！仙北中学校2年生女生徒3名の職場体験

9月20日、最初は緊張気味でしたが、利用者と一緒に体操や、入浴の着替えのお手伝い、昼食の準備の手伝いの後、持参のお弁当と一緒に頂き、午後からはホットケーキ作りをして利用者の誕生会を一緒にお祝いしました。質問コーナーでは、この仕事を選んだ理由や、やり甲斐、辛いことは何か、中学生でも出来ることは何かなど、積極的な質問もありました。食事介助時、手が震えている利用者の介助の仕方などを見て、大変さを感じたが、今日の経験を今後に生かしたいと真剣な姿勢がうかがえ頼もしく感じました。介護の大変さだけでなく、人とのふれあいなど楽しさや喜びもまた、いっぱいあることを感じ取ってもらいたいと思います。

「イクボス宣言」

医療法人社団帰厚堂はイクボス宣言をしました。
イクボスとは、職場で共に働く職員のワークライフバランス（仕事と生活の両立）を大切に、その人のキャリアと人生を応援しながら、事業の業績も結果を出し、自らも仕事と私生活を楽しむことができる管理者となることです。職員が働きやすい環境を整え、長時間労働の削減や介護・看護休暇の充実など家庭生活へも配慮し、多様な活躍ができる組織を目指します。



イクボス宣言

私は、職員が仕事と子育て・介護を両立させることができ、職員全員が働きやすい環境を作ることで、すべての職員がその能力を十分発揮できるよう取り組みます。

- 職員一人ひとりが、働き方の重要性を理解し、仕事を効率的に行うことができるよう業務改善等を積極的に推進します。
- 職員が持つ力を最大限発揮できるよう、職場の意見を大切に、働きがいのある環境をつくります。
- 仕事と生活の調和を考慮し、育児・介護・家事などの家庭負担と仕事を両立できるよう応援します。
- 自らも仕事と私生活を楽しみ、仕事と生活の両立を実現するとともに「イクボス」の精神を職員に浸透させます。

平成30年9月28日
医療法人社団 帰厚堂
理事長 木村 宗孝

各施設から

敬愛荘

施設紹介

介護老人保健施設：病状が安定し、リハビリに重点をおいた介護が必要な方が対象の施設です。入所等の相談は気兼ねなく支援相談員までご連絡ください。

夕涼み会 …あまあ〜い綿菓子やカキ氷で夏を感じて…

7月18日(水)に夕涼み会が開かれました。利用者、職員、ボランティアとして白百合グループさんが参加し一緒に夏の風物詩を楽しみました。職員とボランティアが綿菓子・カキ氷を作っている姿を見て「懐かしい」、「昔を思い出した。」等の声かが聞かれました。岩手の夏と言えばさんさ踊りです。白百合グループの方々と職員が踊っていると普段はもの静かな利用者も「サッコラ〜チョイワヤッセ〜！」と大きな声を出したり、踊りの輪の中に入り一緒に踊って楽しむ利用者もいました。スイカ割り大会ではなかなか割れないスイカに苦戦し何度も叩いては少し休憩したりと利用者の頑張る姿が輝きました。周りで見ている利用者からも「頑張れ!」、「よいしょ!」といった掛け声が凄かったです。割れた瞬間の嬉しそうな笑顔と周りの歓声が重なり盛り上がりの最高潮でした。たくさんの笑顔に包まれた楽しい夕涼み会になりました。



*シルバーカラオケ教室の皆様には長年の間続けて誕生会を盛り上げていただいています。その功績に感謝し感謝状を贈呈しました。

施設の生活 ~南昌福祉の里文化祭に向けて~

余暇活動の一環として10月13日に開催される文化祭に向けて利用者・職員が協力して色々な作品を制作しています。一般棟・専門棟それぞれ利用者のレベルに合わせて作成しています。個人の作品から数人でグループを作って協力して部品を作り大きな作品を作っています。作品展示のほかにもバザーなど様々な催しがありますので楽しんでみてください。



矢巾町夏祭りにさんさ踊りで出演 ~建設業協議会長賞受賞!~

7月15日矢巾町の夏祭りに南昌病院グループとして、さんさ踊りで出演してきました。本番までに初代ミスさんさの佐々木秀子さんに指導していただき練習を重ねました。当日も参加した職員も最高の笑顔で踊りきりました。その結果建設業協議会長賞をいただくことが出来ました。

参加した職員も応援に駆けつけた職員もお疲れ様でした。



平成30年7月豪雨 岡山県倉敷市真備町での支援活動報告

岩手県災害派遣福祉チーム 一次チーム 小泉 進
(医療法人社団帰厚堂 介護老人保健施設博愛荘 支援相談員)

去る7月18日(水)～7月24日(火)、「平成30年7月豪雨」による災害への支援のため、岩手県災害派遣福祉チームの一次チームとして岡山県倉敷市にあるその藪小学校(避難者数約260名)で支援活動を行ってきましたので報告します。

① 岩手県災害派遣福祉チーム

(以下、岩手県DWATとする) 派遣までの経緯

※DWAT(ディーワット)=Disaster Welfare Assistance Team

被災地である岡山県にも岡山県DWATが設置されていたが、登録研修を実施したばかりでマニュアル等も未整備な状況だったため、派遣実績のある岩手Dと協働して活動することとなる。

岩手県が先行して4名(高齢、復興支援、生涯、精神分野から各1名)が現地入りし、7月20日からは岡山県DWAT2名と合流し6名で活動した。

② 岩手県災害派遣福祉チーム一次チームの主な活動内容

- 岡山県DWATとの協働・バックアップの基盤整備
- 他の団体等とのネットワーク構築
- 避難者のスクリーニング
- 要援護者のアセスメント、個別対応
- 相談コーナー立ち上げ
- 環境整備(福祉的視点から)
- さらなるニーズのすくい上げの検討
- 住民組織立ち上げの検討・提言

DWATの活動は期間が限られているためバトンリレー方式となる。次の支援者には情報の伝達だけではなくマインドの伝達も重要視した。特に活動計画については避難者の自立支援の視点で数年先の地域での生活を再開する時期や数ヶ月先の仮設住宅等で生活する時期を意識して策定した。

岩手県DWATが活動開始した時点で避難所内のスクリーニングができていない状況だったため、高知県保健師チームと岩手県DWATがペアを組み巡回しスクリーニングを実施。

スクリーニングや避難所内の支援者ミーティング等で把握した要援護者に対し、DWATで支援を実施した。

避難所内には「相談窓口」がなく、避難者が受付に問い合わせたり、個人で情報を集めたりしなければならない状況であった。福祉的なニーズを拾い上げることを目的に相談コーナーを設置したが、あえて「なんでも相談コーナー」として福祉の相談に限定せず、広く相談を受け付けることとした。期間中は罹災証明や住宅再建に関する相談を30～40件近く受け付けた。

地域での生活を再開する時に住民による自治がスムーズに再開できるよう、避難所生活にもその要素が

必要だと考えた。藪小学校では、住民の自治組織はまだ立ちがっていなかった。いずれ支援者が撤退し、住民自らが避難所運営に携わる時期がくることを意識し、サロン開設と運営への住民の参画を目標にした活動を避難所管理者・岡山県DWAT・2次チームに提言した。

③ 考察

避難所において、福祉的な相談を受けて専門的支援に繋げたり、直接介助したり、障害の特性を知った上で環境整備を行ったりするのは、DWATの活動の特性であり、被災地での必要性が高いと感じている。

なぜならば、避難所ではDWATと同等の役割を一定期間、継続できるマンパワーはないに等しい。そのため発災直後からの受援・支援システムの検討は重要となる。特に支援団体の連絡調整会議は避難所内・外に必要であり、各支援者が効率的・効果的に支援を行うための重要な役割を担っている。

④ まとめ

過去の岩手県DWATとしての災害派遣の経験を踏まえて、今回の派遣では支援者の練度が増していると感じた。支援団体のコーディネートがされており、DWATに対する認知度も上がっていることが実感できた。しかしDWATは県内外に共通してマンパワー不足が課題になっている。

また、現在の仕組みでは被災県からの要請がなければDWATを他県へ派遣ができないこと、DWATを有する各県との派遣の調整も必要となっている。いずれも国による法整備や体制整備が求められる。

平成30年7月西日本豪雨災害の現地支援活動報告会

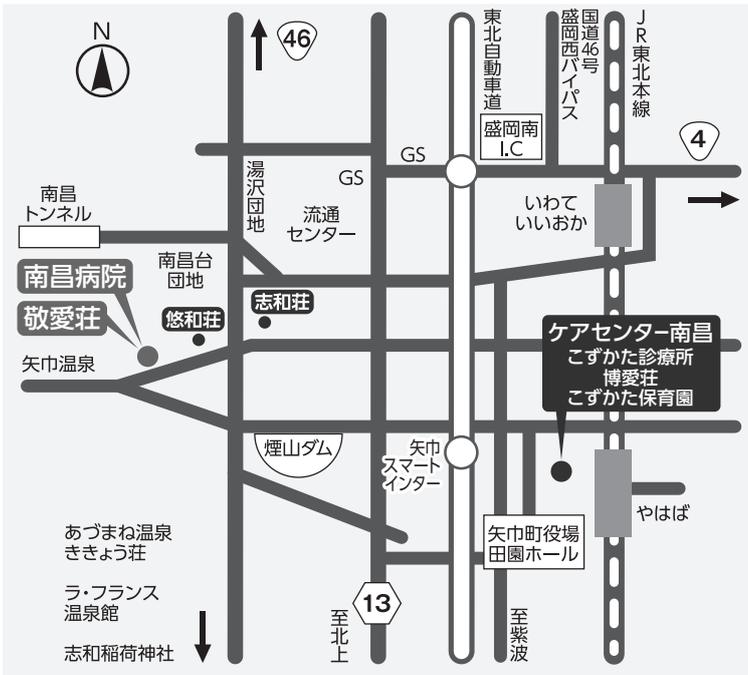
主催：矢巾町
日時：平成30年9月4日(火) 15:30～
場所：ケアセンター南昌 5階南昌ホール

【報告内容】
矢巾町防災計画にみる要配慮者への対応
岩手県市外派遣福祉チームの派遣経過
岡山県での支援活動

【参加人数】
76名
・介護保険事業所・施設職員、
矢巾町職員、民生児童委員、矢巾町民等
・帰厚堂・敬愛会職員



矢巾町エリア



盛岡市エリア



南昌病院診療案内

診療時間／9:15~17:00

月	神経内科	佐藤 典子
火	内科	小原 進
水	脳神経外科	山口 一彦
	循環器内科	西城 精一
木	脳神経外科	齊木 巖
金	脳神経外科	齊木 巖

こずかた診療所診療案内

診療時間／9:00~17:30 (火曜日 19:00まで)

月~金	内科	三浦 秀悦
月・火(午前)	内科	足澤 輝夫
木(午前)	内科	市川 隆
金	神経内科	米澤 久司／高橋 純子

休診日：土曜・日曜・祝日

編集後記

◆南昌病院は、去る9月初旬に日本医療機能評価機構が定める認定審査の訪問審査を受けました。主たる機能としてリハビリテーション病院として受審しました。いわゆる第三者評価です。この機構に認定されている病院は、2,192病院(2018.9.13現在)です。機構が定める医療の質や安全、信頼できる医療を確保していることが認定の基準となります。当院は、平成15年に受審し、認定を受けました。県内の民間病院では初の認定でした。今回は、4回目の更新となります。審査項目は多岐に亘り、診療の内容にまで踏み込むほか、病院の環境整備、チーム医療がうまく機能しているか。医療の安全対策、感染対策が一定のレベルに達しているかなど細部にわたって審査されます。当院でも過去3度受けているとはいえ、準備委員会は10回の開催を数え、その都度問題点の洗い出しと解決に向けた取り組みなど協議しました。準備万端訪問審査を受けましたが、予想したこともあり、予想もしいこともありました。結果は、2ヵ月後です。◆今年の夏は度々40℃を超える地域があり、熱中症などで体調を崩した方も…。また、超大型の台風の直撃。そして北海道では大きな地震が…。災害が相次ぎ各地で被害がでました。50年に一度、未だかつてないなどの言葉がまた飛び交いました。特に北海道胆振頭部地震では、厚真町で震度7を記録し山岳一帯は土砂崩れで景色は一変したのは衝撃的でした。被害に遭われた皆さんには、一刻も早い復旧、復興を願っています。

医療法人社団 帰厚堂	■南昌病院	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-181	TEL 019-697-5211	FAX 019-697-5215
	■介護老人保健施設 敬愛荘	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-181	TEL 019-697-3288	FAX 019-697-0641
	■小規模多機能型居宅介護事業所 恒和荘	〒020-0805	盛岡市東新庄1丁目7-23	TEL 019-681-4166	FAX 019-604-1120
	■グループホーム 若園荘	〒020-0886	盛岡市若園町8-11	TEL 019-601-5501	FAX 019-604-1660
	■ケアセンター南昌	〒028-3614	紫波郡矢巾町又兵衛新田5-335	TEL 019-698-2015	FAX 019-611-2071
	◆こずかた診療所			TEL 019-698-3033	FAX /
	○訪問リハビリテーションこずかた			TEL 019-611-1380	FAX /
	◆介護老人保健施設 博愛荘			TEL 019-698-2015	FAX / ※
	◆博愛荘デイケアセンター			TEL 019-697-1526	FAX /
	◆デイサービスつむぎ			TEL 019-698-2015	FAX / ※
	◆訪問看護ステーションやはば			TEL 019-698-1388	FAX /
	◆ヘルパーステーションやはば			TEL 019-698-1385	FAX /
	◆訪問入浴介護やはば			TEL 019-698-1385	FAX /
社会福祉法人 敬愛会	▲こずかた保育園			TEL 019-698-3008	FAX 019-611-0221
	▲矢巾町地域包括支援センター			TEL 019-611-2855	FAX 019-611-2937
	●特別養護老人ホーム 志和荘	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-100	TEL 019-697-6355	FAX 019-697-6356
	●地域密着型介護老人福祉施設 悠和荘	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-312	TEL 019-698-1661	FAX 019-698-1671
	●敬愛会老人デイサービスセンター	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-514	TEL 019-697-5953	FAX 019-697-7680
	●指定居宅介護支援事業所	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-312	TEL 019-697-0880	FAX 019-698-1671
	●矢巾町地域包括支援センター				
	さわやかハウス相談室	〒028-3615	紫波郡矢巾町南矢幅14-78	TEL 019-697-5570	FAX 019-697-5570

※ケアセンター南昌代表電話